

週刊 タバコの正体

平成25年がスタートしました。また新しい1年が始まるのですが、皆さんにとっては、これからが1年の締めくりとなる3学期です。特に3年生には高校生活の最後となる大切な時期となりました。

クリスマス、大みそか、お正月と続いた冬休みは、あっという間に過ぎてしまい、もっと休みが欲しいと思っている人は多いだろうと思いますが、進級や卒業に向けて、しっかり気持ちを切り替えて学校生活を送って下さい。

さて、タバコの有害物質はその煙に含まれています。喫年者本人が吸い込む煙はもちろん、周りの人が吸わされる受動喫煙の被害も大きいことは知ってのとおりです。

ところが、『火のないところに煙は立たない』というように、タバコを吸うためには“火”が必要です。じつは、この“火”が“煙”以上の被害をもたらす事もあるのです。

一見消えたように見えても、完全に消えていないタバコの火は、左の映像のように1～2時間後に燃え始めます。そして、下の写真のような火事になってしまいます。

「ホンマに、タバコって怖い」よね。

産業デザイン科 奥田 恭久

